

企業価値を高めるためのIT運用とは ～JP1 V8.5 が支援するIT統制、グリーンIT～

2008/6/17

株式会社 日立製作所 ソフトウェア事業部
JP1マーケティング部 部長
石井 武夫

JP1

Contents

1. 企業価値を高めるためのIT運用の課題
2. JP1 が支援する内部統制、グリーンITへの取り組み
3. 攻めの内部統制の実現
4. グリーンIT対応
5. 今後の方向性

JP1

1

企業価値を高めるためのIT運用の課題

- 1-1. いま企業が取り組むべき課題
- 1-2. これからの内部統制
- 1-3. 内部統制に対する意識の変化
- 1-4. 環境問題は企業にとって避けられない課題
- 1-5. 様々なグリーンIT対策

● 企業の社会的責任が問われる時代

揺らぐ企業への信頼

機密情報漏えい

再生紙偽装

耐震偽装

偽装請負

食品偽装

インサイダー取引

膨らむ企業への期待

社会貢献

地域貢献

地球環境問題

ユニバーサル
デザイン

問われる「企業の社会的責任」

いま取り組むべき課題は、「**統制による企業価値向上**」

- **内部統制**の徹底強化により、信頼される企業へ
- **グリーンIT**の取り組みにより、企業イメージ向上へ

- 内部統制の取り組みに差が出る2008年

守りの内部統制

これまでの内部統制

日本版SOX法に対応するための限定的な統制
(文書化、財務報告に係るプロセスに特化した対応)

適用範囲拡大

ITの有効活用

攻めの内部統制

これからの内部統制

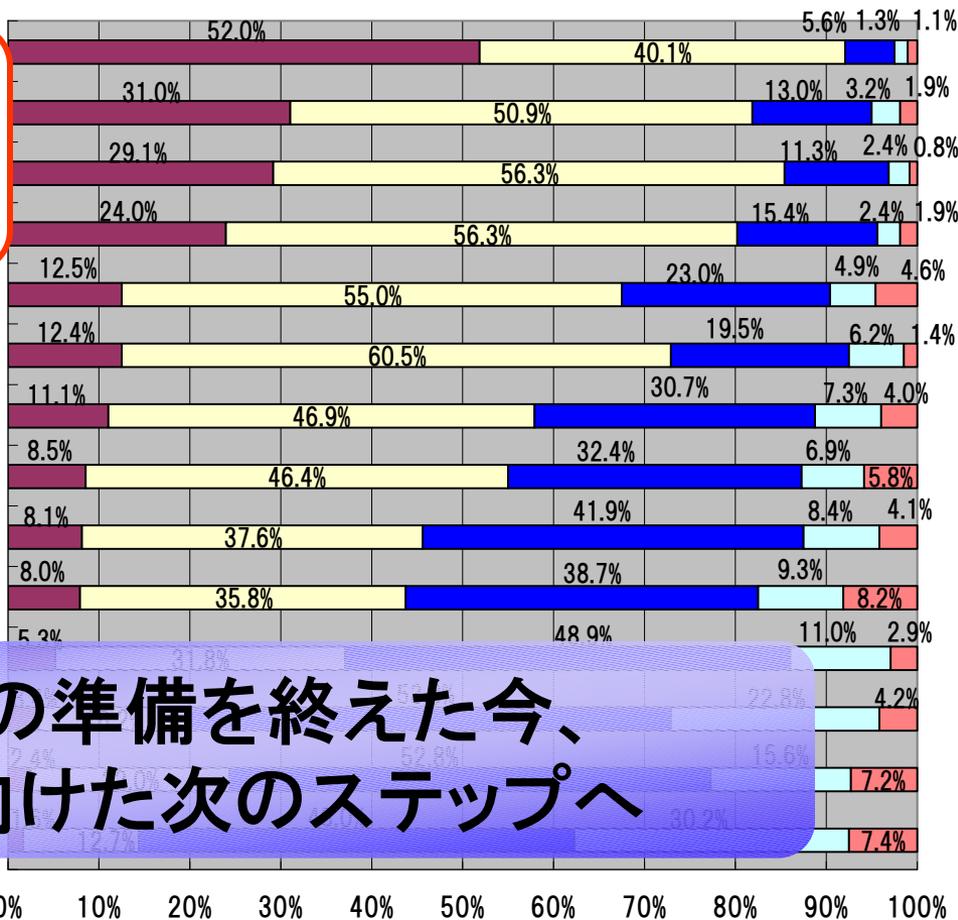
企業価値を高めるための真の内部統制
(法対応を超えた業務プロセスの見直しによる企業改革)

1-3. 内部統制に対する意識の変化

● 内部統制実現による企業価値向上に向けて 8割以上の企業が 内部統制を前向きにとらえている

「財務報告に係る内部統制の評価」の効果

- リスクを洗い出し、対応を行うよい機会である
- コーポレートガバナンスの有効性が高まる
- 経理部門等で行っている決算・財務報告プロセスの改善につながる
- 各部署で行っている受注、購買等の業務プロセスの標準化・効率化につながる



単なる法対応への準備を終えた今、
企業価値向上に向けた次のステップへ

■ 強く思う □ やや思う ■ あまりそうは思わない □ 全くそうは思わない ■ わからない

出典:「内部統制に関するアンケート調査結果」(2007年7月)
NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

● 環境問題は企業が果たすべき社会的責任の一端

- 消費者の意識・行動の変化により、
環境に配慮した企業の製品やサービスが**選ばれる時代**へ
- **法的強制力**を伴ったものへと変化する可能性も
- エコな企業でなければ**生き残れない時代**になる



● 地球にも、企業にも優しい、グリーンIT

グリーンITへの 取り組み

- 消費電力量削減
- 無駄の排除

地球に優しい 一次的効果

- CO₂削減

企業に嬉しい 二次的効果

- コスト削減
- 企業イメージ向上
- リスク管理
(調達要件/法的強制)

● 導入から運用まで、いまからでも始められる様々な施策

マシン室/ データセンタ

導入フェーズ

- 省電力機器の導入
- サーバ統合
- 仮想化

運用フェーズ

- 計画的な電源制御
- 業務量に応じた
サーバ構成の最適化
- 設備と連動した省電力運用

オフィス 部門

導入フェーズ

- 省電力PCの導入
- 液晶ディスプレイの採用

運用フェーズ

- 省電力設定の徹底
- 帰宅後PCの電源OFF
- 遊休資産の削減

運用管理

JP1

2

**JP1 が支援する
内部統制、グリーンITへの取り組み**

- 企業競争力を高め、コアビジネスに集中するために

攻めの内部統制の実現

- 徹底した効率化と統制プロセスの定着に向けて、「簡単導入」「自動化」「見える化」を実現

グリーンITへの取り組み

- 省電力視点での運用を統制するための仕掛けを提供し、運用面からグリーンITへの取り組みを支援

JP1

3

攻めの内部統制の実現

- 3-1. これまでのJP1による内部統制の支援
- 3-2. JP1 V8.5 は攻めの内部統制へと発展

3-1. これまでのJP1による内部統制の支援

IT運用プロセスの統制強化

● ITIL®サービスデスク:JP1/IM-SS

審査・承認を漏れなく行うなど運用プロセスの統制により、
確実に正しい業務運用を遂行します。

正しく運用させる
ための統制

JP1/IM-SS : JP1/Integrated Management - Service Support



運用実績の記録と管理の容易化

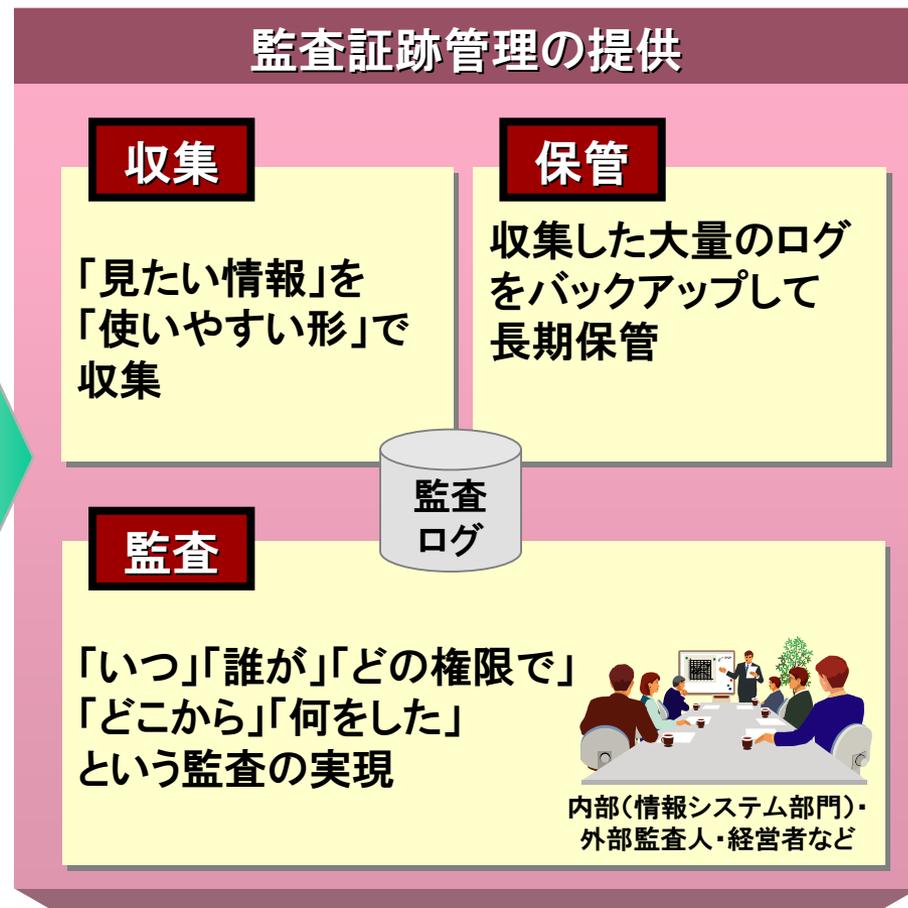
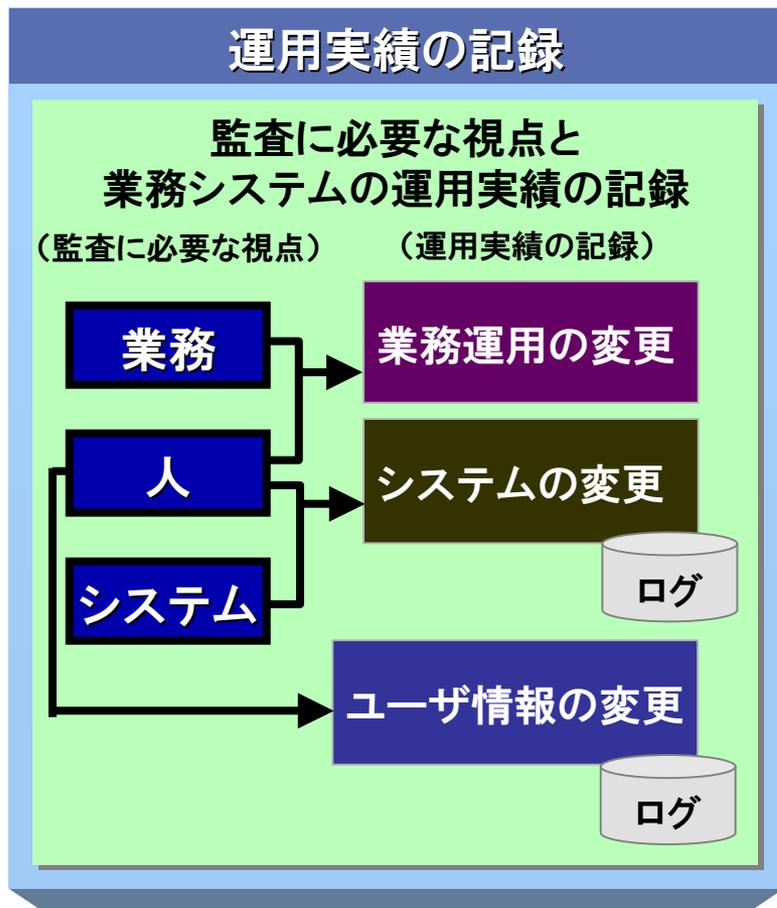
● 監査証跡管理:JP1/NETM/Audit

業務システムにおいて内部統制がきちんと機能していることを
証明するために必要とされる証跡記録を管理して監査を実現します。

正しく運用されて
いるかの証明

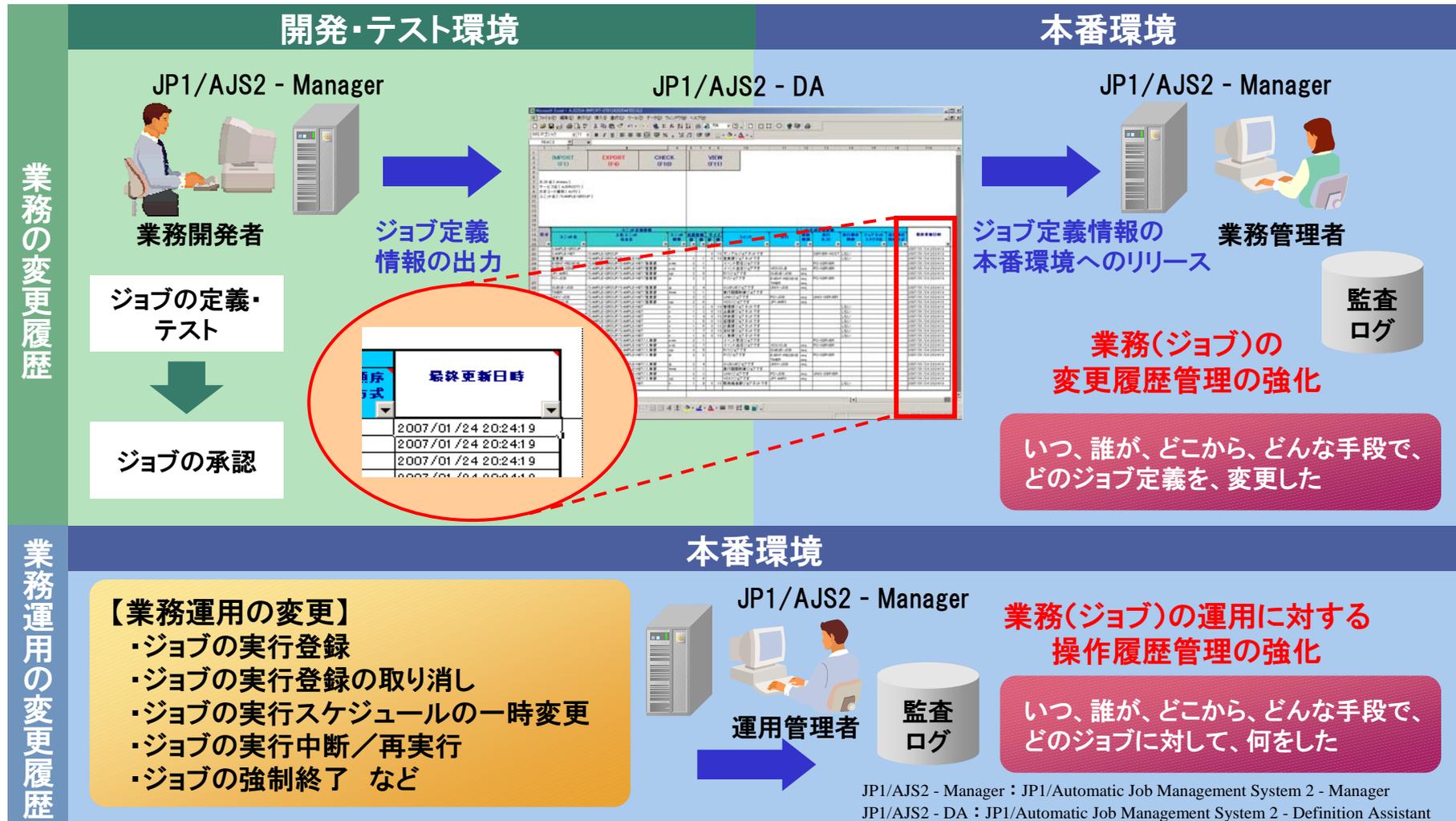
(1) JP1の監査証跡管理

- 監査に必要とされるシステムの証跡記録を収集・長期保管。
システムが正しく運用されていることの証明を支援します。



(2) 業務の運用実績の記録

- 業務運用や業務の変更に関して「いつ、誰が、どこから、どんな手段で、何に対して、何をした」という記録を監査ログに出力できます。



(3) 業務の運用実績の収集・保管・監査

● 収集された操作ログ/変更履歴ログを必要に応じて容易に検索、調査することができます。

The screenshot displays the JP1/NETM/Audit web interface. On the left, a navigation tree is visible, with '監視ログ管理' (Monitoring Log Management) highlighted. The main area shows search criteria for 'ユーザー作成監査-ユーザー' (User Creation Audit - User). A search pattern is set to '@JP1/Baseユーザー作成監査-ユーザー'. The search results table shows a list of logs with columns for ID, message ID, and date.

検索パターン名
 @JP1/Baseユーザー作成監査-ユーザー

表示件数 100

検索 レポート CSV PDF

メッセージID KAJP6000 **情報** 部分一致

発生日時(開始) 00 : 00 : 00

発生日時(終了) 00 : 00 : 00

プログラム名 JP1Base

コンポーネント名 User_management

プロセスID 以下

発生場所

監視対象種別 ConfigurationAccess

監視対象結果 Success

サブジェクト情報

固有情報

表示結果 1-15 / 15

監視ログID	メッセージID	発生日時
0		2007/08/01
0		2007/08/02
0		2007/08/03
0		2007/08/04
0		2007/08/05
0		2007/08/06
07-E		2007/08/07
07-E		2007/08/08
07-E		2007/08/09
07-E		2007/08/10
KAVS0107-E		2007/08/11
KAVS0107-E		2007/08/12
KAVS0107-E		2007/08/13
KAVS0107-E		2007/08/14
KAVS0107-E		2007/08/15

レポート

項番	発生日時	発生場所	利用者・プロセス情報	操作・処理内容	結果	プログラム名	説明
1	2007/08/07 16:27:18.000	vm-audit-0850	ajs2admin	設定情報アクセス	成功	JP1/AJS2	ジョブネットの登録の取り直し ログ種別 C102 ログ名称 in 0 JP1_DEFAULT ;LEAVE - F AJSROOT1 - B all /#810590/RootXXX
2	2007/08/07 16:37:21.000	vm-audit-0850	ajs2admin	設定情報アクセス	成功	JP1/AJS2	ログ種別 C305 ログ名称 ユニットの複写、移動 固有情報 C305 Aug 07 16:37:21 ajs2adm in 0 JP1_DEFAULT ;COPY - F AJSROOT1 - c - o /#810590/RootXXX /#810590/RootYYY
3	2007/08/07 16:47:32.000	vm-audit-0850	ajs2admin	設定情報アクセス	成功	JP1/AJS2	ログ種別 C301 ログ名称 ユニットの定義内容変更 固有情報 C301 Aug 07 16:47:32 ajs2adm in 0 JP1_DEFAULT ;CHANGE - F AJSROOT1 /#810590/RootXXX
4	2007/08/07 16:51:59.000	vm-audit-0850	ajs2admin	設定情報アクセス	成功	JP1/AJS2	ログ種別 C101 ログ名称 ジョブネットの登録 固有情報 C101 Aug 07 16:51:59 ajs2adm in 0 JP1_DEFAULT ;ENTRY - F AJSROOT1 - s /#810590/RootXXX

デフォルトの検索/集計パターンは製品ごとに分類されて表示され、検索が容易

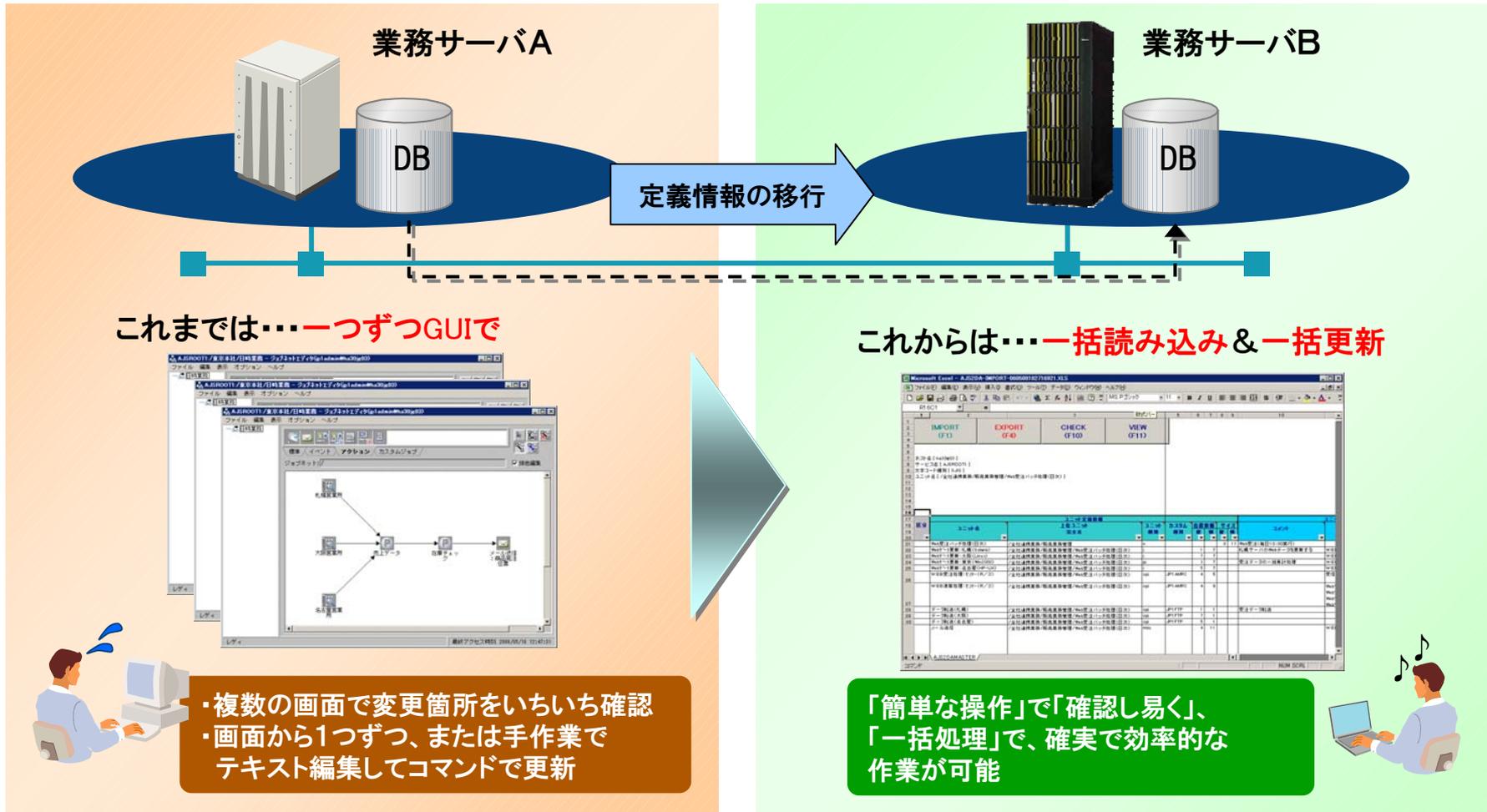
ページが表示されました

SchedulerLog

インターネット

(4) 業務サーバの変更作業を効率よく安全に

- 日々、発生する業務サーバの変更作業が多くても安心です。JP1/AJS2-DAは一括処理なので効率的で操作ミスがありません。



IT運用プロセスの統制強化

- ITIL®サービスデスク:JP1/IM-SS

審査・承認を漏れなく行うなど運用プロセスの統制により、
確実に正しい業務運用を遂行します。

正しく運用させる
ための統制

JP1/IM-SS : JP1/Integrated Management - Service Support



正しく運用されて
いるかの証明

運用実績の記録と管理の容易化

- 監査証跡管理:JP1/NETM/Audit

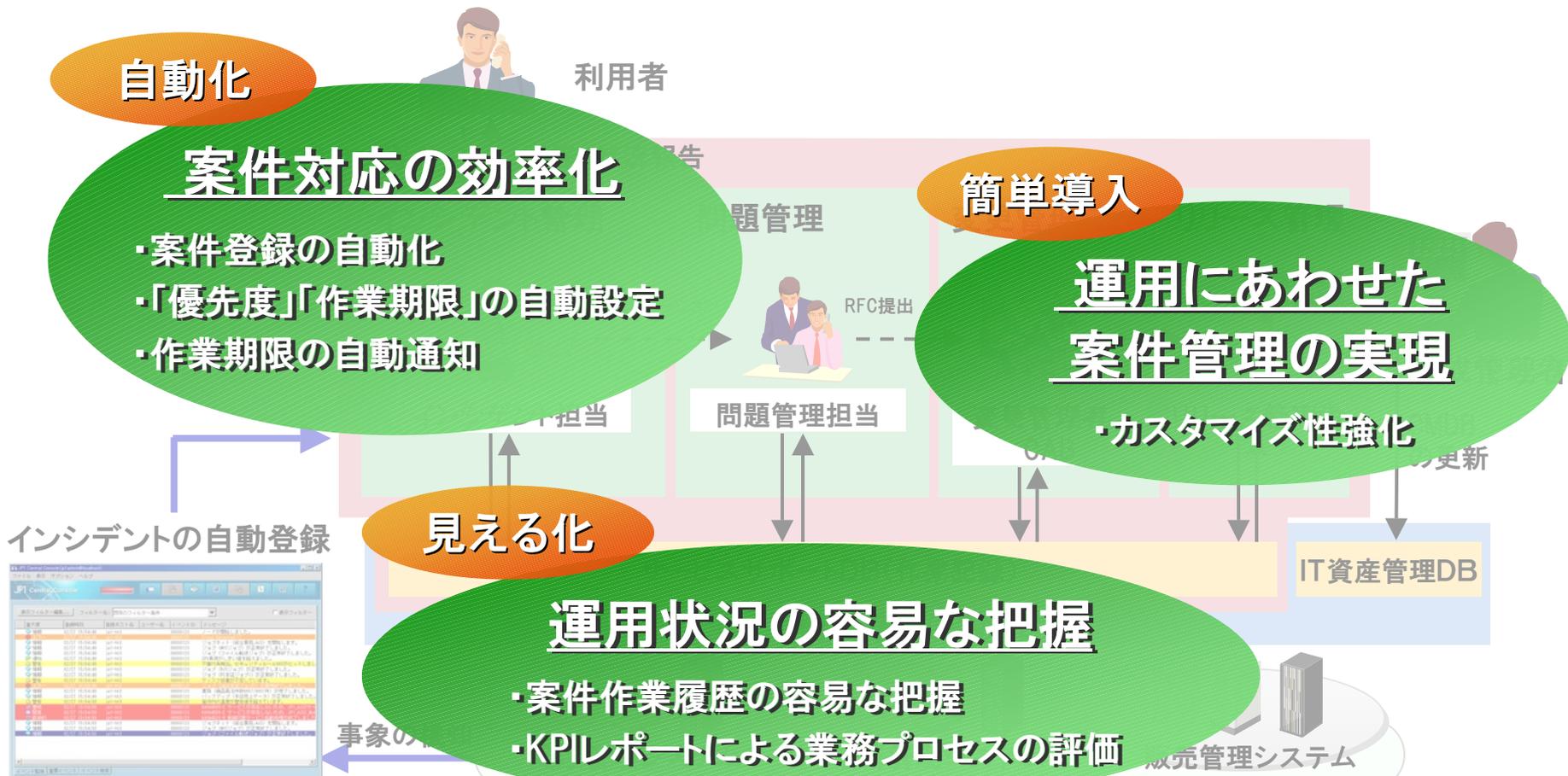
業務システムにおいて内部統制がきちんと機能していることを
証明するために必要とされる証跡記録を管理して監査を実現します。

JP1/NETM/Audit : JP1/NETM/Audit - Manager

© Hitachi, Ltd. 2008. All rights reserved.

3-2. ITIL®サービスデスクの強化ポイント

- 案件対応の自動化範囲を拡大し、さらに案件作業履歴の見える化を支援。「無駄」「もれ」「属人性」の排除により、統制のとれた案件処理を実現します。



CAB: Change Advisory Board
 CMDB: Configuration Management DataBase
 RFC: Request For Change

KPI(key performance indicator):重要業績評価指標

(1) 案件対応の効率化

自動化

HITACHI
Inspire the Next

モニタリング

- 案件登録から「優先度」、「作業期限」の設定、作業期限の通知など、一連の案件管理作業を自動化。案件対応の効率化を実現できます。

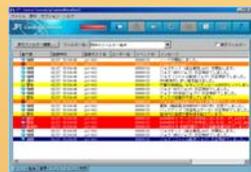
Point1

案件の自動登録

メール



JP1イベント



事象の検知



案件作成画面

ITプロセス管理 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

案件作成

登録 アクション 閉じる

タイトル* :

案件ID : 更新日時 :

システム : 在庫管理システム プロセス : インシデント管理

誕生日時 : 2008/02/13 カレンダー 09:36 作業期限 : 2008/02/14 カレンダー 09:36

担当者* : ステータス* : 受付

顧客名 :

案件種別 :

問題分野 :

概要 :

登録日時 :

開始日時 : 2008/02/13 10:09:36 完了日時 :

重大度 :

影響度 :

優先度 : 大至急

作業状況 :

Point2

インパクト・マトリクスのポリシーに従って、「優先度」、「作業期限」を自動設定

Point3

メールで作業期限を自動通知



入力ミス/設定もれや案件の沈み込みを防止し、案件長期化の抑止に効果を発揮します

(2) 案件作業履歴の容易な把握

見える化

モニタリング

● 案件に対する作業内容を時系列で一覧表示。作業の経過と最新の状況を一画面で容易に確認できます。

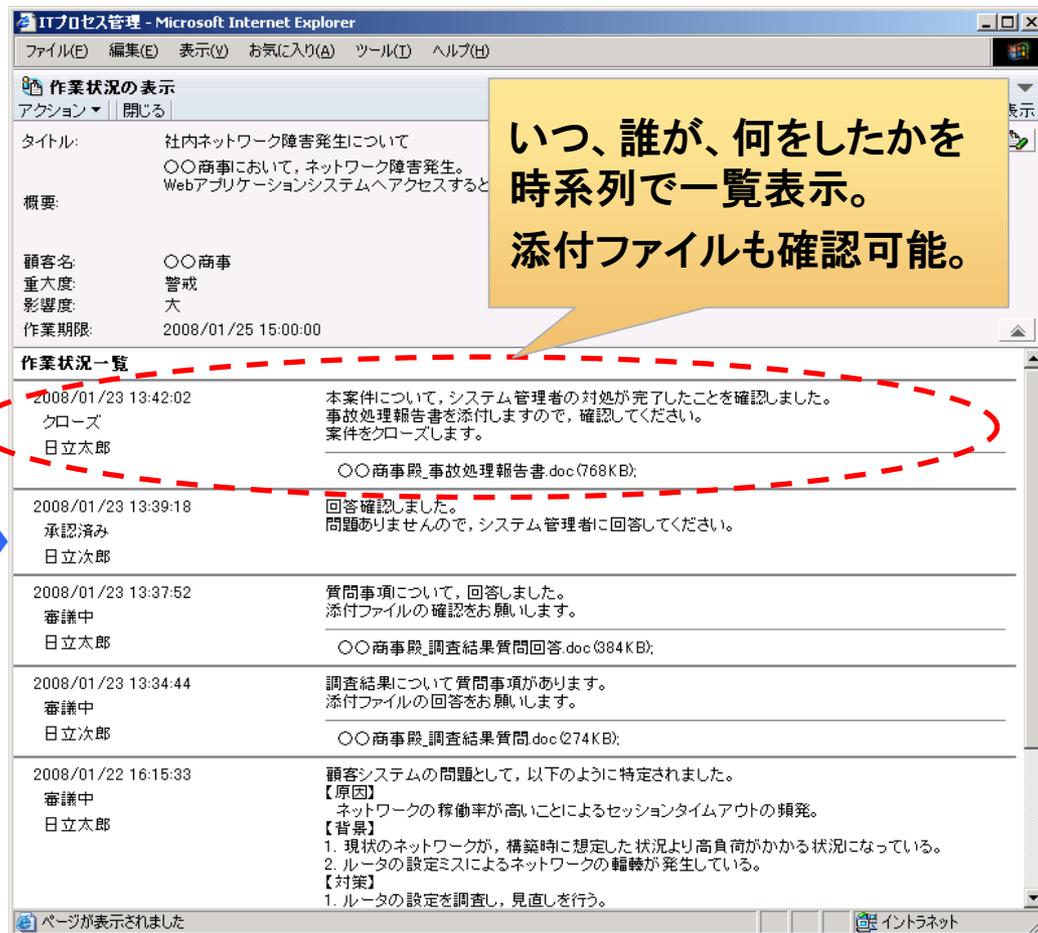
案件管理画面(プロセス視点)



案件管理画面(システム視点)

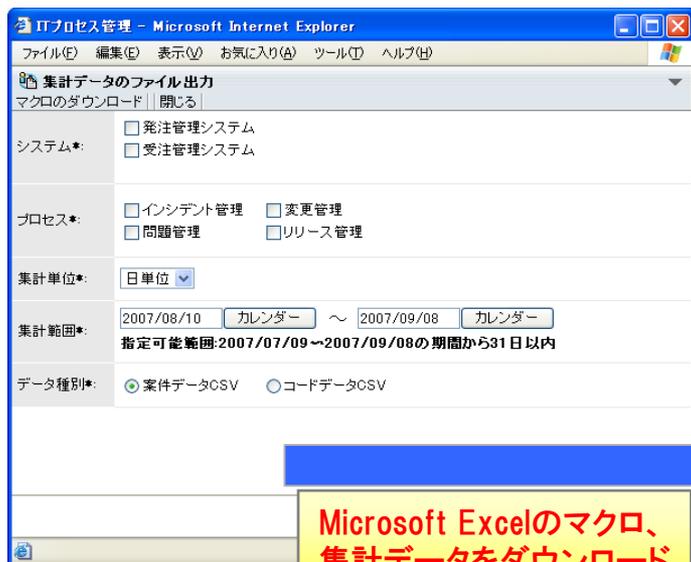
案件を選択して、案件の作業の経過を一画面ですぐに確認可能。

作業状況確認画面



いつ、誰が、何をしたかを時系列で一覧表示。添付ファイルも確認可能。

- 発生したインシデントの情報から、KPIを容易に数値化。業務プロセスを定量的に評価し、改善に役立てることができます。



Microsoft Excelのマクロ、
集計データをダウンロード

KPIを数値化可能

- 一次サポート解決率
 - インシデント解決までの平均所要時間
 - 作業期限内のインシデント解決率
- など

※ KPI(key performance indicator):重要業績評価指標

運用レポート

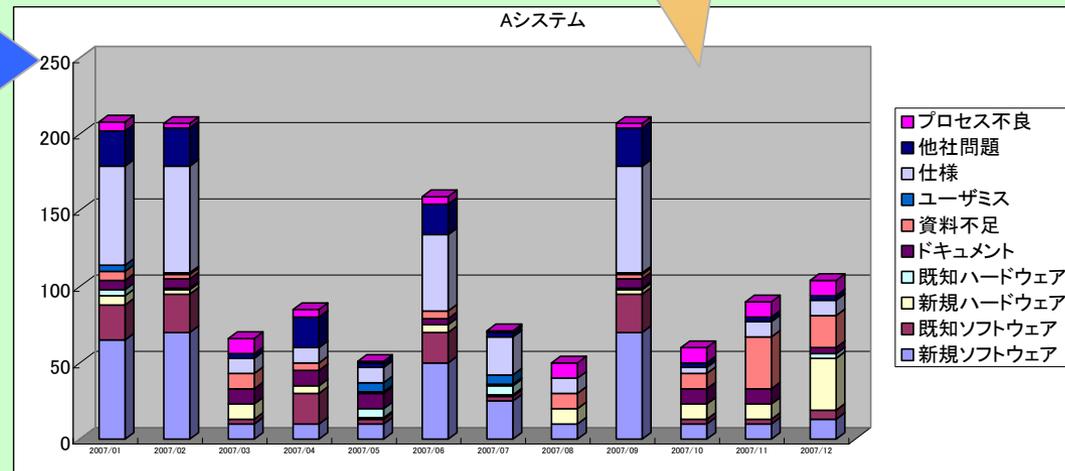
今月のインシデント案件の要因の内訳トップ3

ランク	要因名	件数	発生率
1	新規ハードウェア	34	0.24
2	資料不足	21	0.15
3	新規ソフトウェア	13	0.09

集計期間内のインシデント案件の要因の内訳トップ3

ランク	要因名	件数	発生率
1	新規ソフトウェア	353	0.11
2	仕様	344	0.10
3	資料不足	109	0.03

インシデントの要因別内訳を
数値化してビジュアルに確認



(4) 運用にあわせた案件管理の実現

簡単導入

HITACHI
Inspire the Next

モニタリング

- システムごとに異なる案件フォームを利用したり、お客様の業務にあわせてステータスを容易にカスタマイズ可能。
お客様の運用にあわせた案件管理を実現します。

障害管理システム用のカスタマイズ例

The screenshot displays the JP1 Service Support web application. On the left, a navigation menu includes '案件状況', 'システム視点', 'プロセス視点', '障害管理システム', '問合せ受付システム', 'レポート出力', and '関連リンク'. A red dashed circle highlights '障害管理システム' and '問合せ受付システム', with a blue arrow pointing to the main form area.

The main form, titled '案件作成' (Case Creation), shows the following details for a case titled 'ディスク障害':

- タイトル*: ディスク障害
- 担当者*: [Dropdown]
- 登録者: [Field]
- 作業関係者: [Field]
- 優先度: 至急
- 更新日時: [Field]
- ステータス*: 対応依頼中 (highlighted with a red dashed circle)
- 結果: [Field]
- 受付日時*: 2008/01/28 09:10
- 作業期限: [Field]
- 開始日時: 2008/01/28 09:10
- 完了日時: [Field]
- 発生要因: 0頭依頼
- 案件種別: 障害
- 障害マシン管理部署: 構築, 構成変更, 問い合わせ, 資産管理, 運用検討&改善, クラスタ関連, 障害 (selected), メンテナンス, その他
- メール番号: [Field]
- カテゴリ: [Field]
- 使用プロジェクト名: [Field]

Two callout boxes provide additional information:

- 「ステータス」のカスタマイズ**
お客様用語への変更や、追加・変更・削除が可能。
- 「案件フォーム」のカスタマイズ**
業務にあわせ、システムごとにカスタマイズした案件フォームを利用可能。

3-2. JP1 V8.5 は攻めの内部統制へと発展

IT運用プロセスの統制強化

- ITIL®サービスデスク:JP1/IM-SS

審査・承認を漏れなく行うなど運用プロセスの統制により、
確実に正しい業務運用を遂行します。

正しく運用させる
ための統制

JP1/IM-SS : JP1/Integrated Management - Service Support



正しく運用されて
いるかの証明

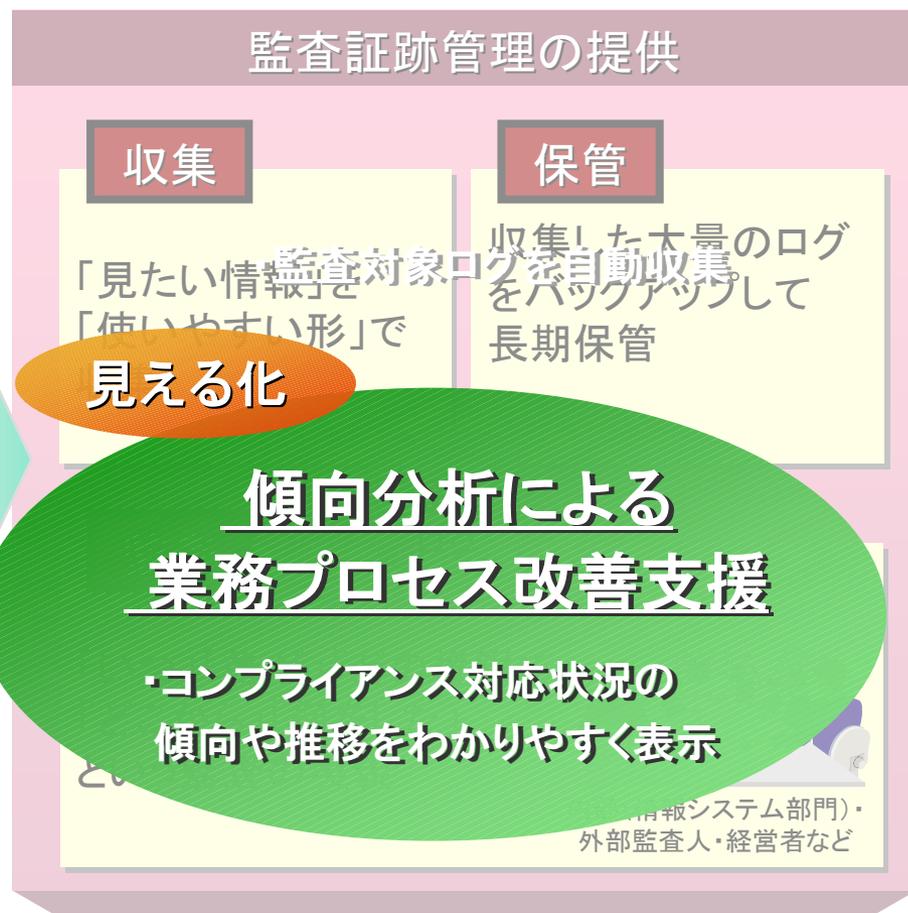
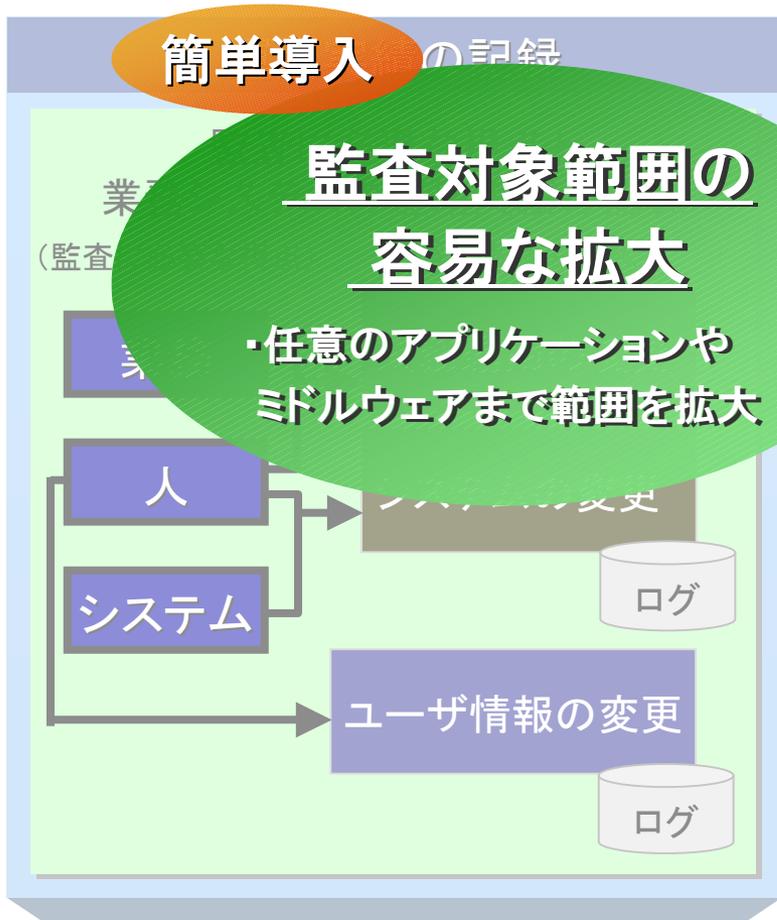
運用実績の記録と管理の容易化

- 監査証跡管理:JP1/NETM/Audit

業務システムにおいて内部統制がきちんと機能していることを
証明するために必要とされる証跡記録を管理して監査を実現します。

3-2. 監査証跡管理の強化ポイント

- 監査証跡の収集範囲を容易に拡大し、収集した情報からコンプライアンス上の問題点をすばやく把握。業務プロセスの改善を支援します。

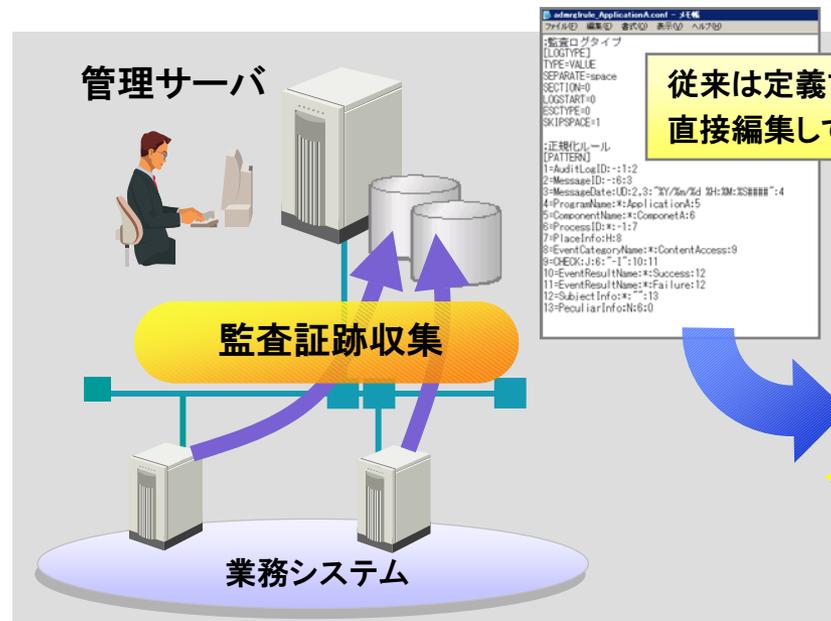


(1) 監査対象範囲の容易な拡大

簡単導入

ITコンプライアンス

- 監査対象を容易に拡大できる正規化ルール GUI定義機能を提供。必要な監査証跡を容易に収集対象とすることができます。



```

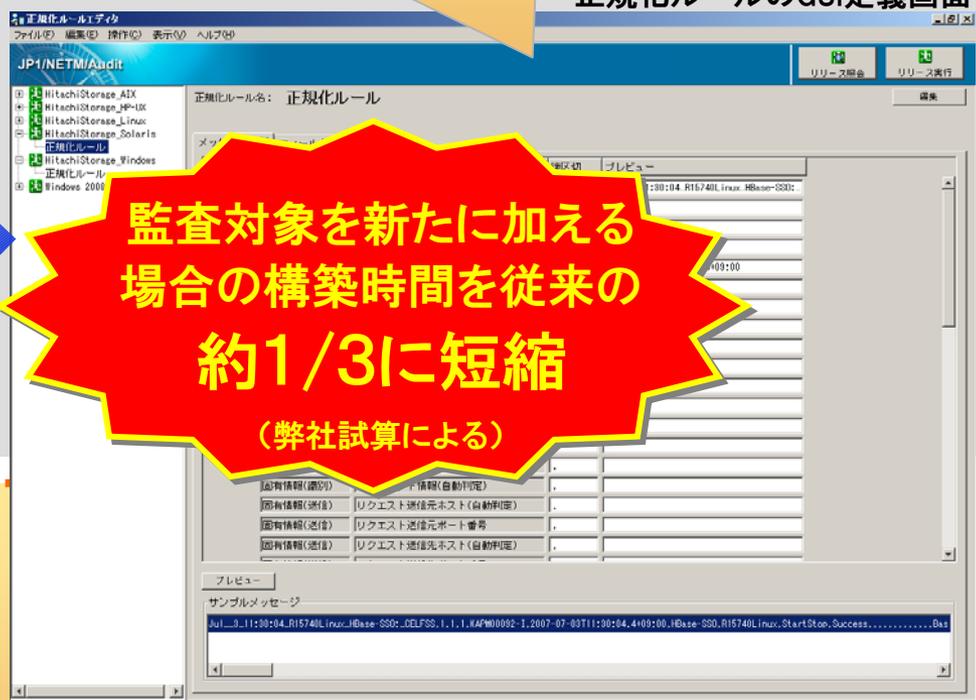
adminrule Application8.com - 正規化
ファイル(F) 編集(E) 実行(C) 表示(V) ヘルプ(H)
:監査ログタイプ
[LOGTYPE]
TYPE=VALUE
SEPARATE=space
SECTION=0
LOGSTART=0
EXCTYPE=0
SKIPSPACE=1

:正規化ルール
[PATTERN]
1=AuditLocID:~1:12
2=MessageID:~16:8
3=MessageDateID:~2:3:"YY/MM/DD 時:分:秒####":4
4=ProgramName:*Application:5
5=ComponentName:*Component:6
6=ProcessID:*~1:7
7=ProcessInfo:8
8=EventCategoryName:*ContentAccess:9
9=DECKJ:~1:10:11
10=EventResultName:*Success:12
11=EventResultName:*Failure:12
12=SubjectInfo:~1:13
13=SpecialInfo:~1:13
  
```

従来は定義ファイルを直接編集して対応

GUI定義画面で正規化ルールを作成すれば、監査対象とすることが可能

正規化ルールのGUI定義画面



監査対象を新たに加える場合の構築時間を従来の約1/3に短縮 (弊社試算による)

- 任意のアプリケーション
 - 任意のミドルウェア
 - OS、DB、JP1製品など 一部製品向け標準テンプレート
- 監査証跡収集対象

- 監査証跡の内容を分析し、コンプライアンス対応状況の傾向や推移をわかりやすく、見やすいグラフで表示。実行エラーの時系列分布など、業務プロセス上の問題点を見える化し、業務プロセス改善を支援します。



JP1

4

グリーンIT対応

- 4-1. オフィスでのグリーンIT対応
- 4-2. マシン室／データセンタでのグリーンIT対応
- 4-3. 仮想環境の運用管理

- 省電力PCの導入および省電力設定状況の把握と徹底を支援

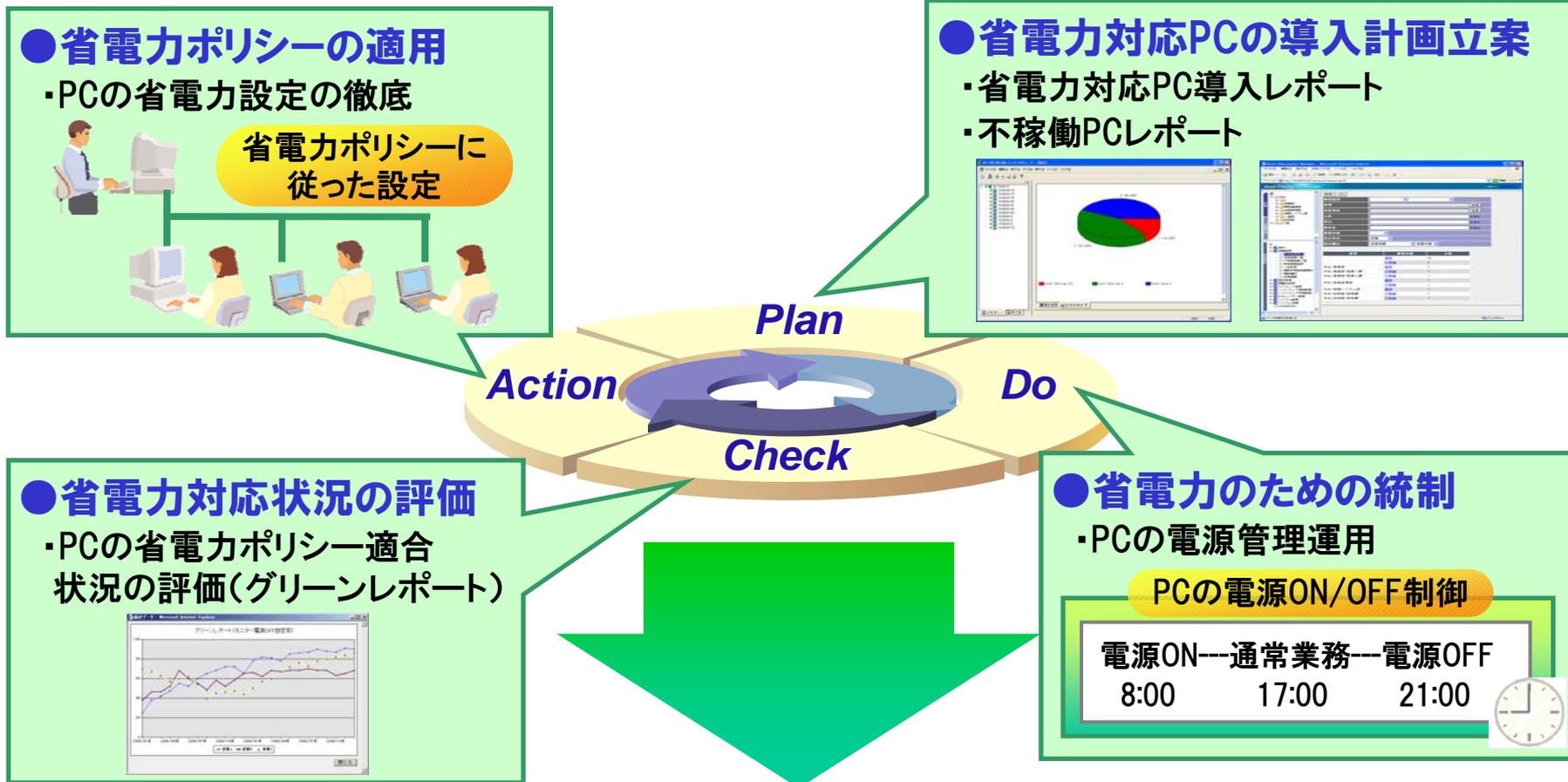
(1) 省電力対応PCの導入率および使用状況のレポート

(2) 効率の良いPCの電源管理運用

(3) PCの省電力ポリシーへの適合状況レポートと設定支援

4-1. オフィスでのグリーンIT対応のPDCAサイクル

- PCの省電力運用をPDCAサイクルにより継続的に改善できます。

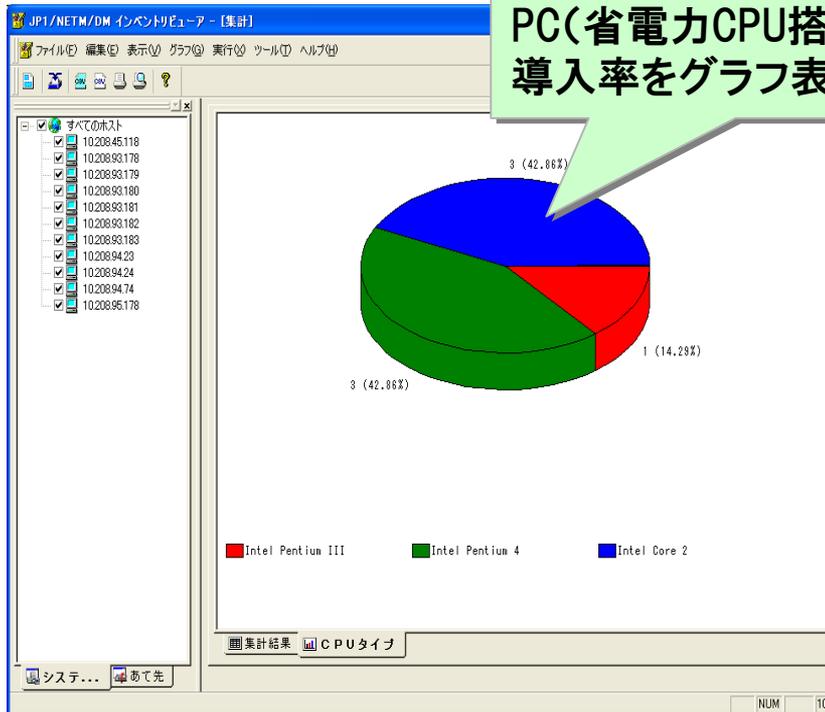


JP1/NETM で実現

4-1. オフィスでのグリーンIT対応 (1) 省電力対応PCの導入率および使用状況のレポート

- 省電力対応CPUを搭載したPCの導入率や、PCの使用状況を部署別にレポート出力できます。
- オフィスにおける省電力対応状況を的確に把握し、計画的なオフィスの省電力化を支援します。

省電力対応PC導入レポート



Office energy-saving PC (energy-saving CPU equipped PC) introduction rate is displayed in a graph

Non-idling PC Report

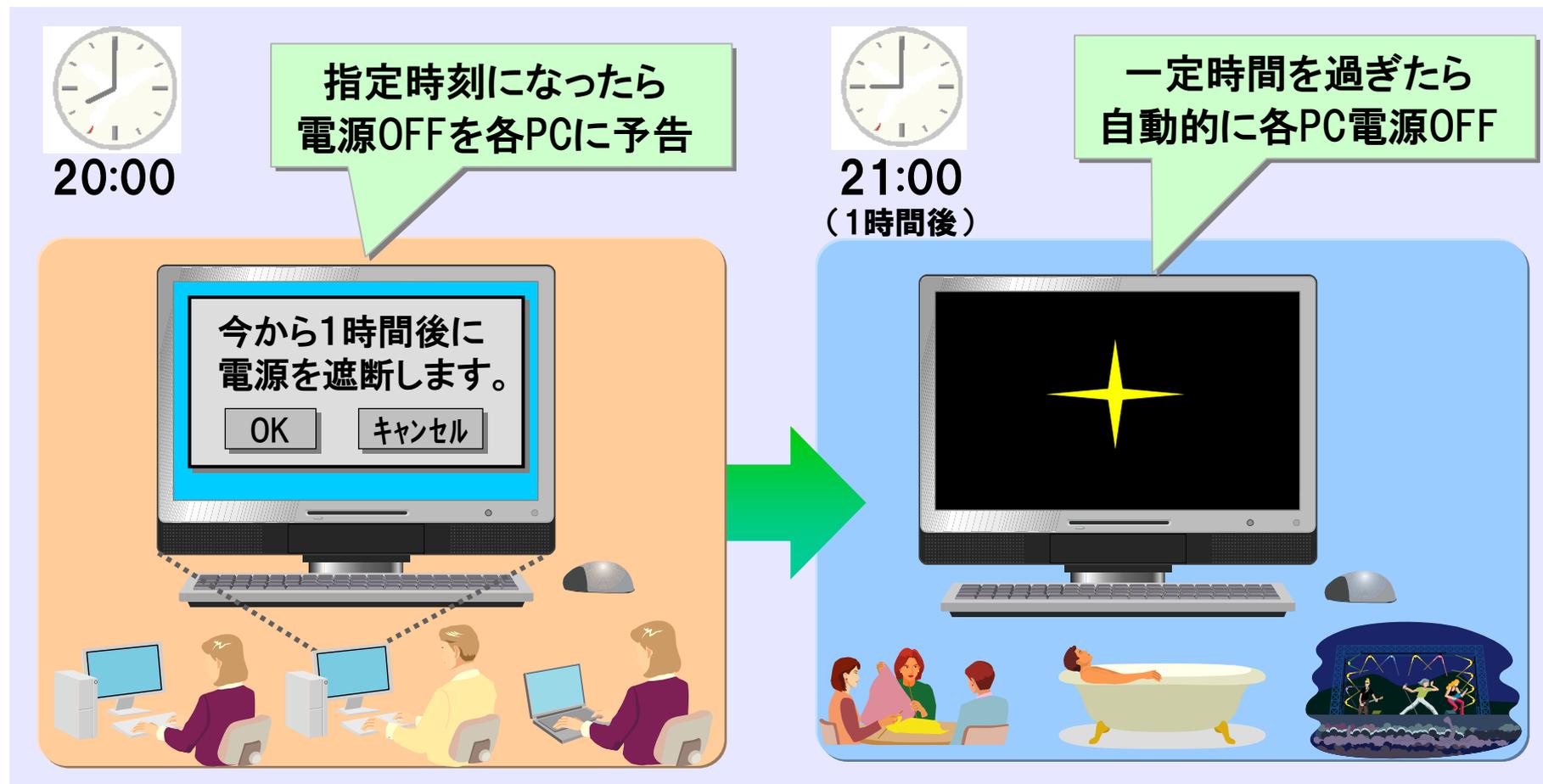
Office non-idling PC count by department

Department	Device Status	Count
本社	運用	26
本社	不稼働	5
本社/営業部	運用	2
本社/営業部/営業1課	不稼働	1
本社/営業部/営業2課	不稼働	1
本社/資産管理部	運用	1
本社/資産管理部	不稼働	1
本社/情報システム部	運用	1
本社/総務部/総務課	不稼働	1
本社/総務部/庶務課	不稼働	1

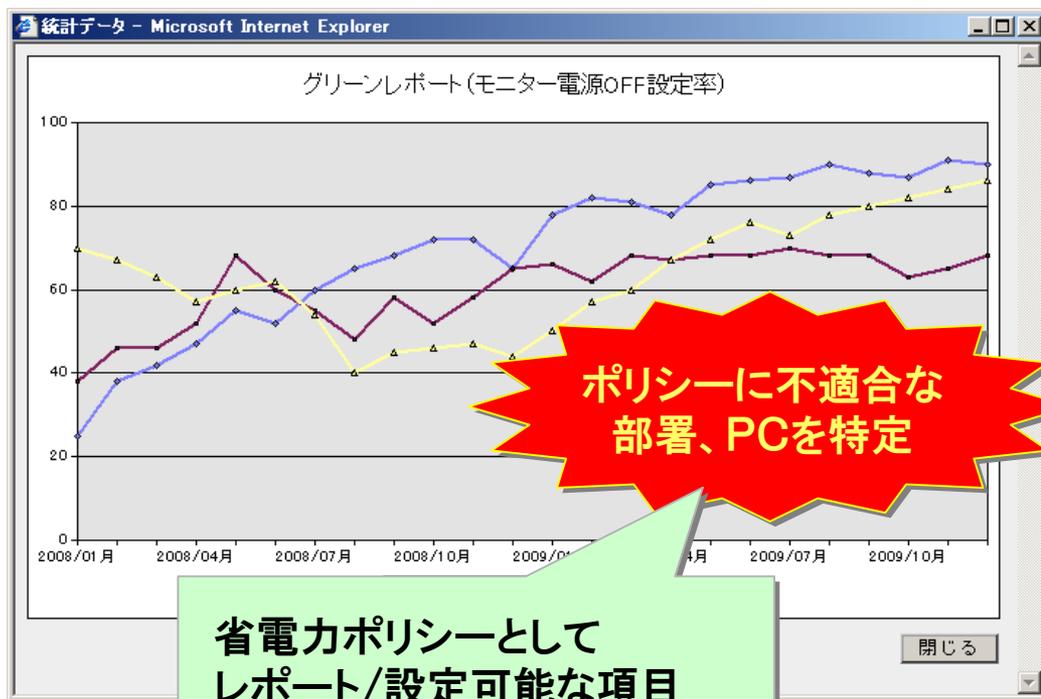
Office non-idling PC count is counted by department

4-1. オフィスでのグリーンIT対応 (2) 効率の良いPCの電源管理運用

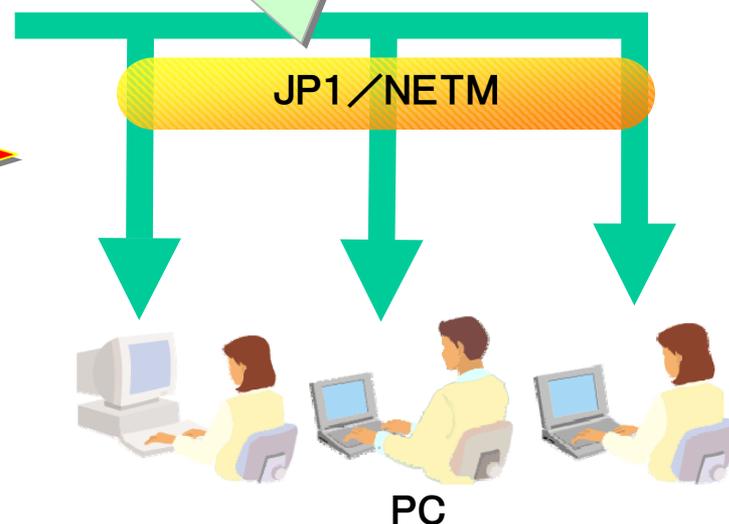
- 指定時刻になったら、JP1/NETM管理下のPCに対して一斉に電源OFFのメッセージを送信。一定時間を過ぎたら自動的に電源OFF。
- オフィスにおけるPCの省電力運用徹底をはかることができます。



- オフィスにおける省電力ポリシー(省電力対応CPU搭載PCの導入率など)への適合状況を部署別、時系列にレポート出力できます(CSV出力も可能)。
- 省電力ポリシーに適合していない部署、PCに対して、ポリシーに従った設定を一括して行うことができます。



省電力ポリシーに従い
モニター電源OFFを一括設定
(※1)



(※1)JP1/NETM/DMの外部プログラム起動機能を使用したOSコマンド実行による一括設定。

4-1. オフィスでのグリーンIT対応 (4) SI-LCAによるPCの電源管理運用のCo2削減効果

● 評価モデル

- 企業規模 本社 PC 100台、工場 PC 50台
- 対象業務 ソフトウェアやファイルの更新版を配布
- 評価運用ケース
 - ・通常業務の時間帯は8時から18時。
 - ・ソフトウェアやファイルの配布作業は深夜(24時)に実施し、配布終了後に電源OFF。その後、翌朝8時まで待機状態。
 - ・本運用を10回/月実施。



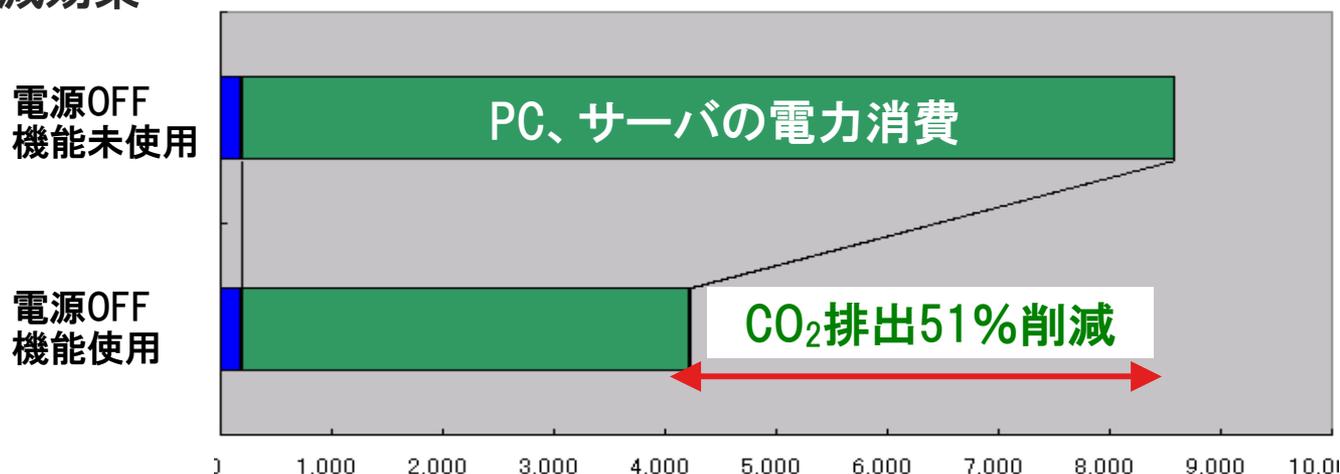
- 省電力のための統制
 - PCの電源管理運用

PCの電源ON/OFF制御

電源ON—通常業務—電源OFF
8:00 18:00 24:00



● Co2削減効果



※ SI-LCA(System Integration-Life Cycle Assessment)

システム・ソフト・サービス製品のライフサイクルにおける環境負荷を評価する手法です。本手法は「平成17年度 情報通信技術(ICT)の環境効率評価ガイドライン」に準拠しています。

- 稼働サーバおよび消費電力量の最適化により省電力対応を支援

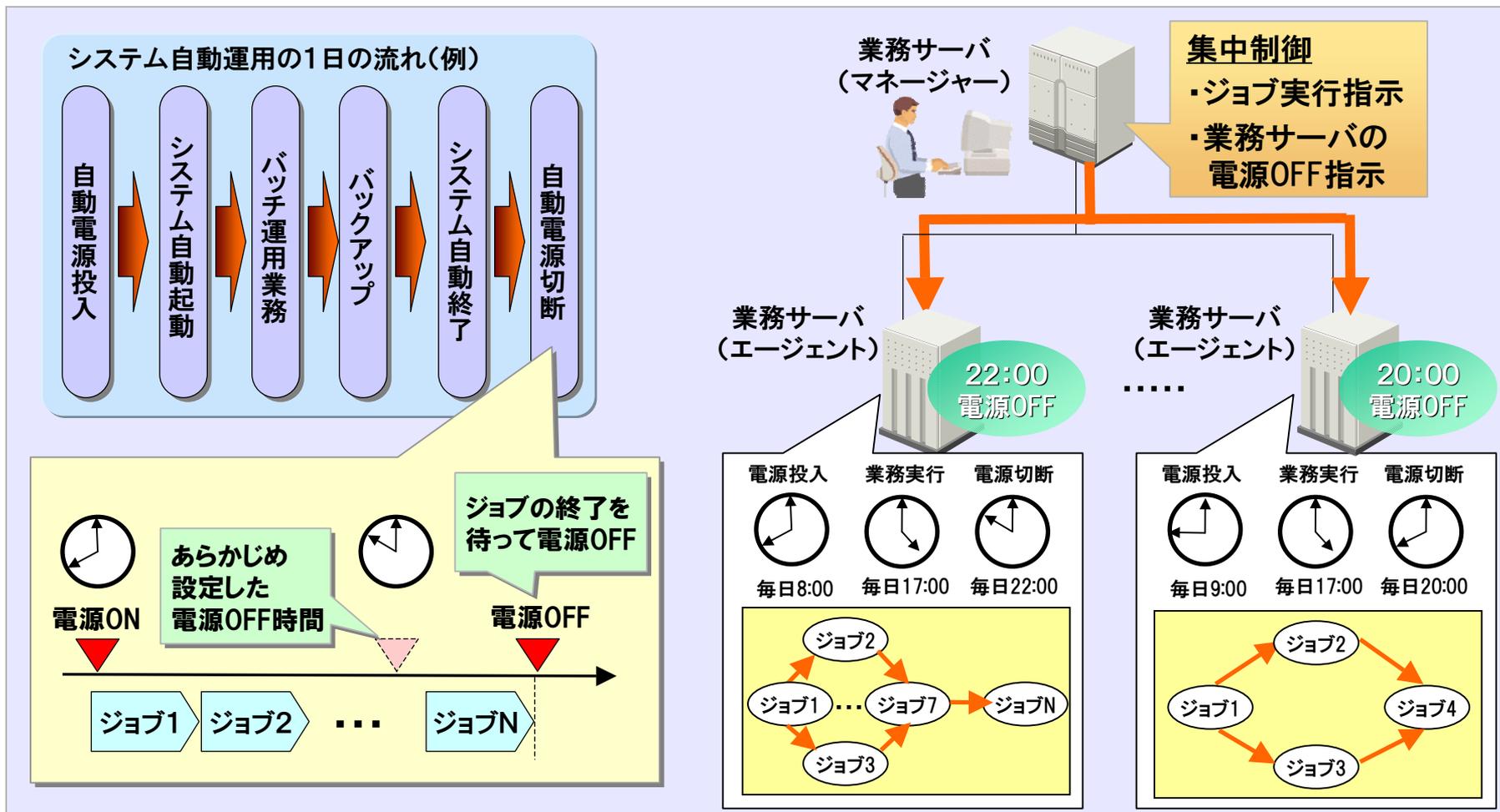
(1) 電源効率の良い業務の自動運用

(2) 業務量に応じた実行環境構成の最適化

(3) 温度監視による電源設定制御

4-2. マシン室/データセンタでのグリーンIT対応 (1) 電源効率の良い業務の自動運用

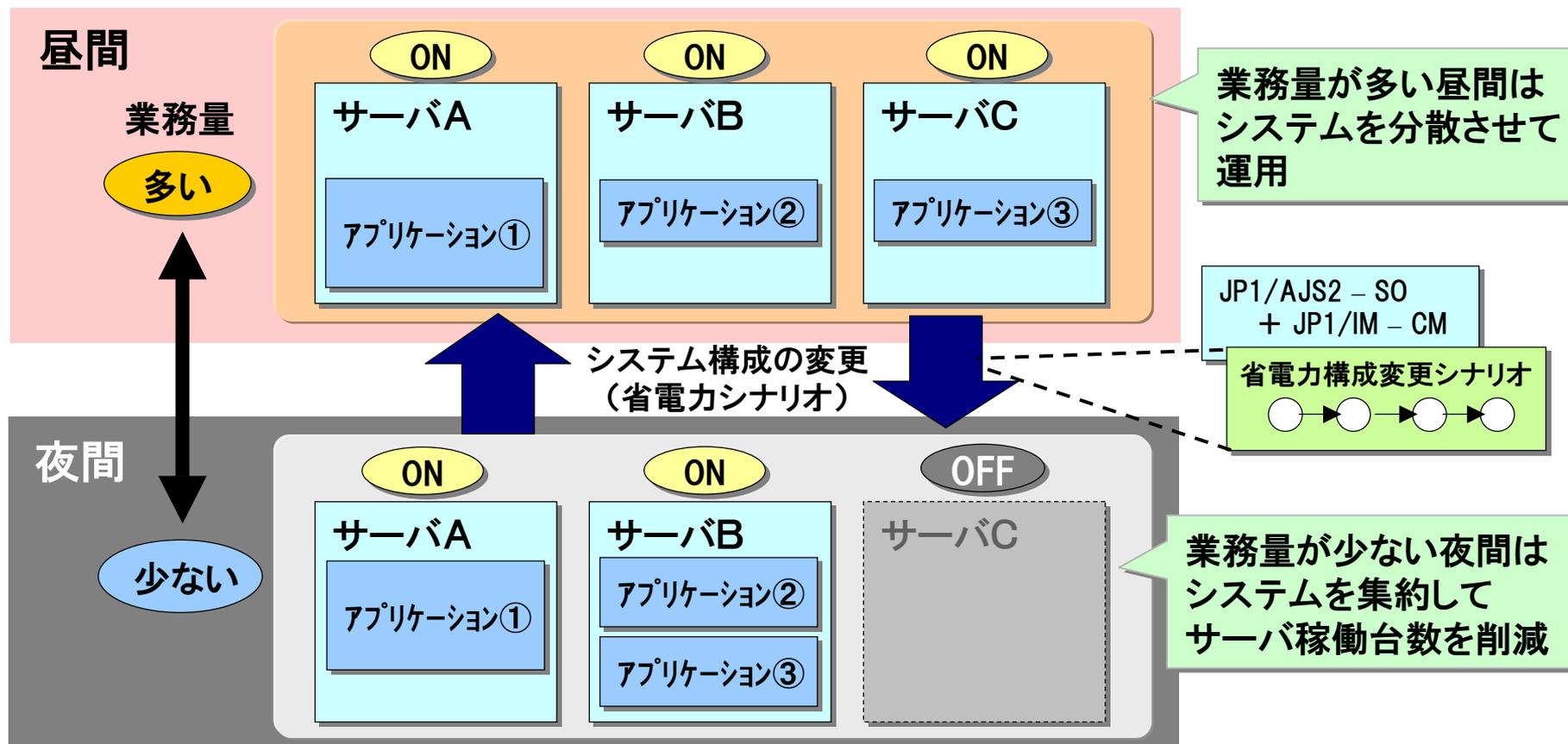
- JP1/AJS2とJP1/PWとの連携により、複数サーバの異なる業務開始/終了時間に合わせて、電源ON/OFFを制御でき、効率よく省電力運用を自動化できます。



JP1/AJS2 - Manager : JP1/Automatic Job Management System 2
JP1/PW : JP1/Power Monitor

4-2. マシン室/データセンタでのグリーンIT対応 (2) 業務量に応じた実行環境構成の最適化

- 業務量に応じてシステムの構成を変更・集約することにより、サーバ稼働台数を削減。システム全体の処理性能を低下させずに、電力消費量を削減できます。
- システム構成の変更は、JP1/AJS2 - SO(シナリオ管理)とJP1/IM - CM(システム情報管理)を基盤とした省電力シナリオで実現できます。



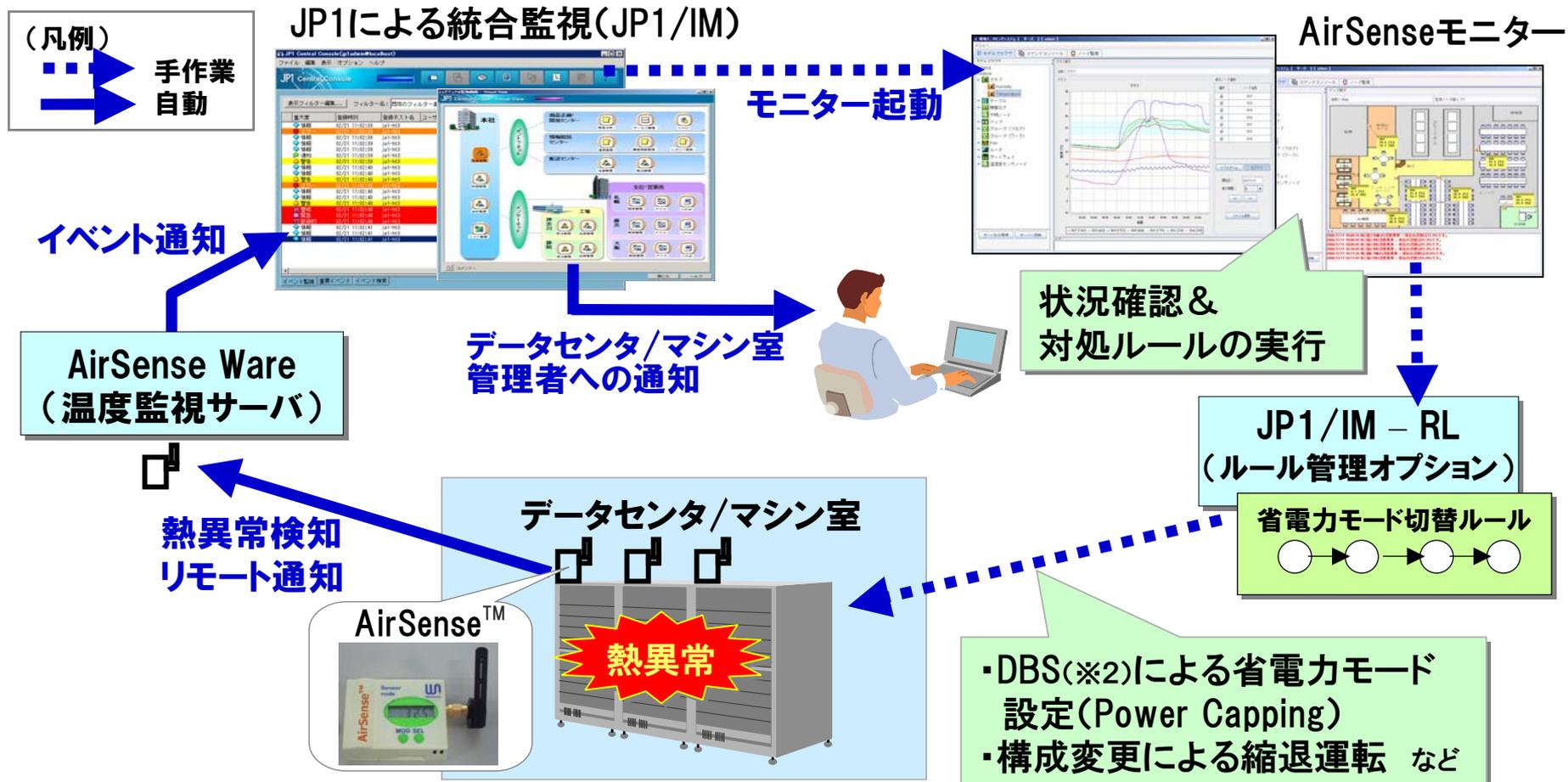
JP1/AJS2 - SO : JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation

JP1/IM - CM : JP1/Integrated Management - Central Information Master

© Hitachi, Ltd. 2008. All rights reserved.

4-2. マシン室/データセンタでのグリーンIT対応 (3) 温度監視による電源設定制御

- AirSense™(※1)との連携により、熱異常/予兆検知をJP1で統合監視でき、異常検知後の対応についてもすみやかに行うことができます。



(※1)AirSense™:(株)日立製作所ワイヤレスインフォベンチャーカンパニーが開発・販売している小型無線センサ。温湿度、振動、パーティクルなどの環境監視が可能。

(※2)DBS:Demand Based Switching Intelプロセッサの周波数・消費電力を制御する機能。

JP1/IM : JP1/Integrated Management

JP1/IM - RL : JP1/Integrated Management - Rule Operation

◇ 仮想環境がグリーンITにも貢献

「大型サーバを仮想化技術と組み合わせて、利用率を向上させることが、グリーンITに寄与すると言えます。」
[引用: Itpro SPECIAL グリーンITに果たす仮想化の役割]

「…利用率が低い小型サーバ群に対してサーバ仮想化技術を適切に活用して大型サーバ1台へのサーバ統合を行うことで、電力消費量の合計をおよそ5分の1に低減可能という試算が成り立つ。」

[引用: COMPUTERWORLD 「仮想化時代」に到来する3つのテクノロジー・トレンド グリーンIT/プロビジョニング/自律コンピューティング]

◇ 物理サーバと仮想サーバの共存により、IT運用が複雑化

構成把握

物理サーバと仮想サーバの混在

障害対応とインパクト管理

発生箇所の特定

最適な性能確保

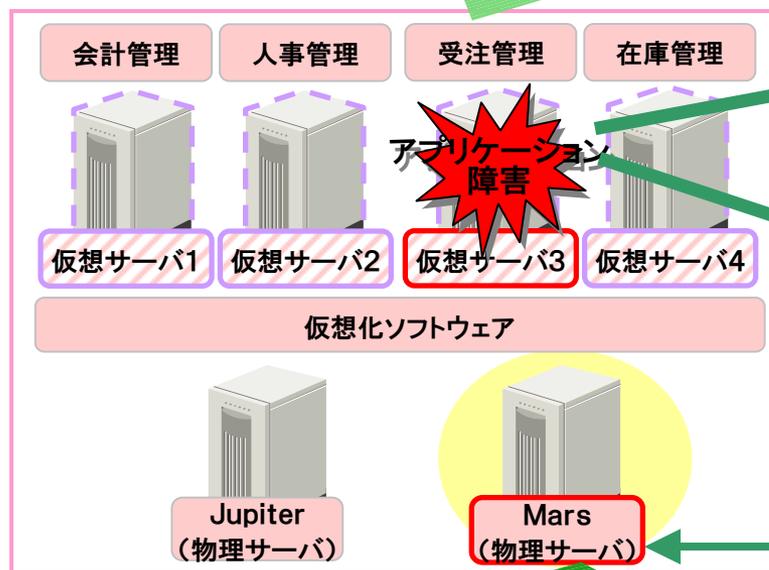
物理と仮想を加味したチューニング

(1) 仮想環境での障害発生サーバの特定

仮想サーバを業務単位や物理サーバ単位でグルーピングして表示。仮想環境でも、業務への影響範囲の確認、対策に必要な障害発生サーバ(物理サーバ)の特定を迅速に行うことができます。

① 障害発生の通知

⇒ 障害発生は**仮想サーバ**単位で通知



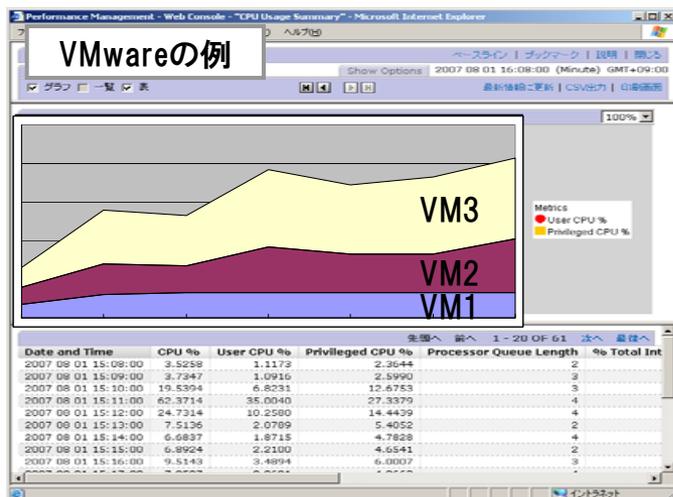
② 対策の検討と実行

⇒ 障害対策には**物理サーバ**の特定が必要
ex. 物理サーバのリポート、リソース増設 など

(2) サーバ仮想環境での性能監視

2008/秋
予定

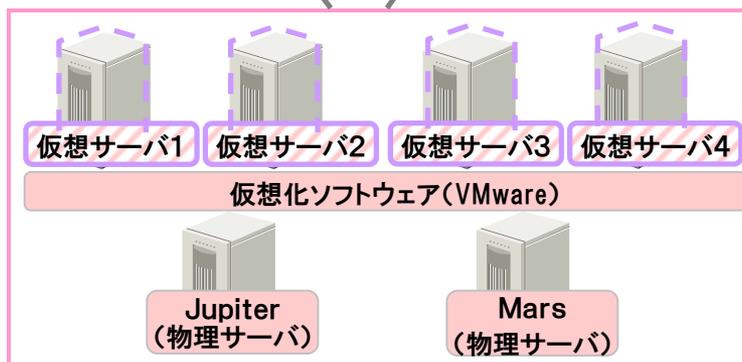
- ゲストOSの稼働情報収集に加え、物理サーバの管理情報をレポート出力することで、各仮想空間へのリソース割当てを加味した性能・稼働監視が可能。仮想化システムのチューニングなどに利用できます。



JP1/PFMIによる複数仮想サーバの稼働状況レポート
(CPU利用率の時系列グラフ)

物理サーバ	仮想サーバ	CPU割当率	メモリ割当率	...
host-p1	VM1	50%	33%	...
	VM2	30%	33%	...
	VM3	20%	33%	...

JP1/PFMIによるハイパーバイザ管理情報のレポート



JP1

5

今後の方向性

**JP1はお客様のIT運用による企業価値向上を
支援するために進化し続けます**

次世代JP1

次期メジャーバージョン (2009年予定)

JP1 V8.5

V8.5 (2008年3月末～)

**攻めの内部統制支援と
グリーンITへの対応を強化**

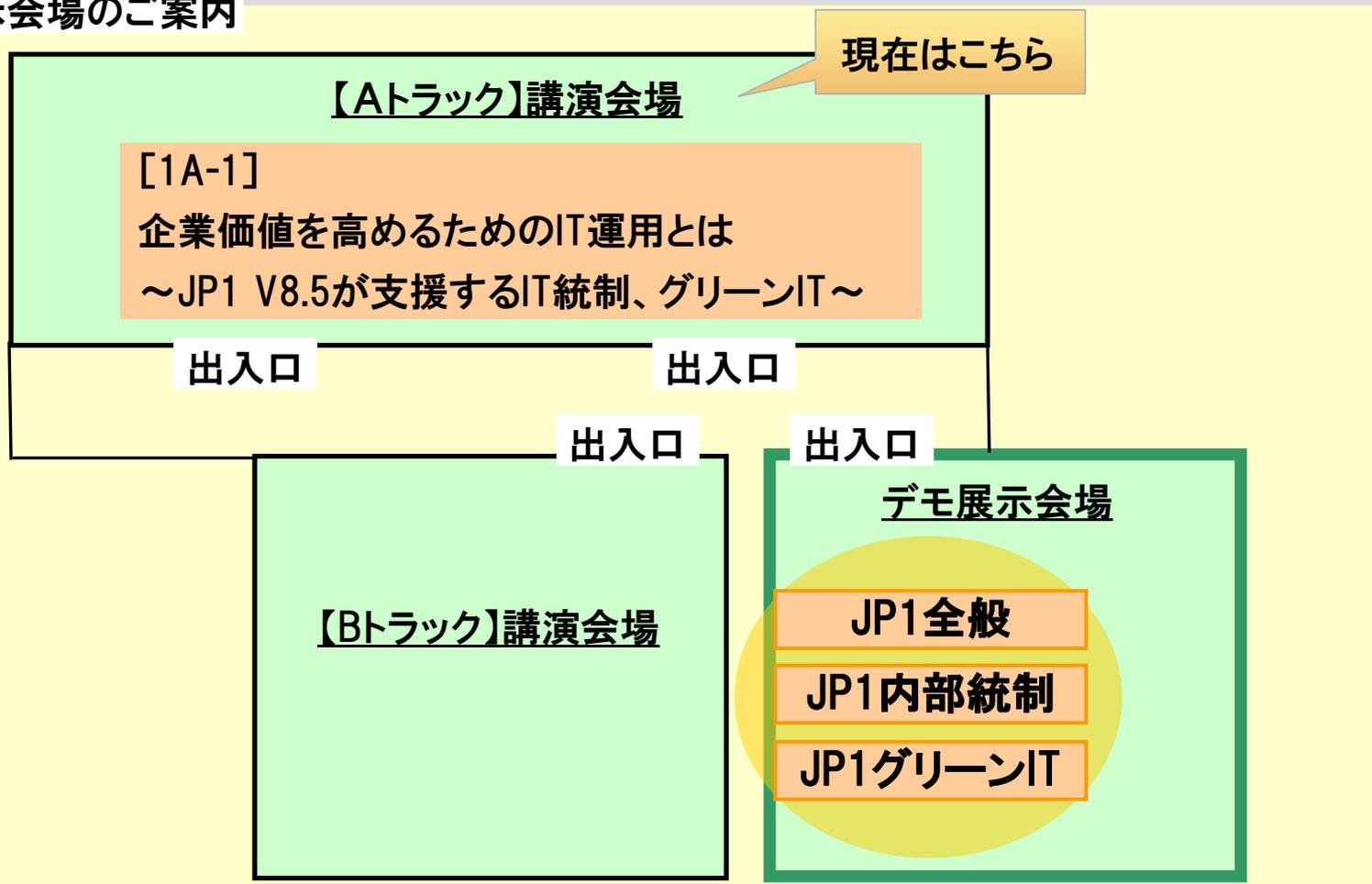
- ◆内部統制支援強化
- ◆グリーンITへの対応

ビジネス価値を最大化する

次世代JP1

ご清聴、ありがとうございました。

デモ展示会場のご案内



●他社商品名、商標等の引用に関する表示

- AirSenseTMIは株式会社日立製作所の商標です。
- ITIL(IT Infrastructure Library)は、英国および欧州連合各国における英国政府OGC(Office of Government Commerce)の商標または登録商標です。
- Intel、およびvProは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
- Microsoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Microsoft Excelは、米国Microsoft Corp.の商品名称です。
- VMware, Virtual SMP, VMotionは、VMware, Inc.の米国および各国での登録商標または商標です。
- その他、本資料に記載の会社名、製品またはサービス名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

◇本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
なお、ご不明な場合は、弊社担当営業に お問い合わせください。

- 画面表示をはじめ、製品仕様は、改良のため変更することがあります。